

27年9月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年9月1日～ 27年9月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
仕入 動向	国産材製材品	28.6	0.0	△ 7.1
	外材製材品	7.1	△ 14.3	△ 7.1
	構造用集成材	41.7	16.7	0.0
消費 動向	国産材製材品	7.1	14.3	0.0
	外材製材品	△ 7.1	21.4	0.0
	構造用集成材	△ 8.3	33.3	0.0
在庫 動向	国産材製材品	7.1	△ 7.1	△ 14.3
	外材製材品	△ 7.1	△ 7.1	△ 21.4
	構造用集成材	16.7	8.3	△ 25.0

・プレカット加工用部材の仕入は、国産材は9月の増加が、10月横ばい、12月減少。外材は9月の増加が10月、11月は減少。構造用は9月、10月の増加から11月は横ばい。
・プレカット部材の消費は、国産材は9月、10月の増加が11月は横ばい。外材及び構造材は9月の減少が10月増加、11月横ばい。
・プレカット部材の在庫は、9月の外材の減少を除いて増加するが、10月、11月は総じて減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27/9月	10月	11月
受注	7.1	14.3	△ 7.1
加工	21.4	14.3	△ 7.1
受注残	△ 14.3	△ 7.1	△ 21.4

・プレカット工場の受注及び加工は9月、10月の増加が、11月は減少。受注残は3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・出材順調だが市況は低迷。住宅着工数は幾分減少に伴い、消費量も減少に向かう。在庫は縮小傾向。
・国産材は値上げムードに。米マツは更に強含みに。WW間柱は一部アイテムに欠品あり。集成材は強含みながら平角にまだ安値あり。9月は思ったほど消費伸びず。10月以降の感触もいまいちはっきりしない。9月在庫から10月在庫まで増産になり、11月末から一転、在庫調整期に入る。
・仕入は今のところ順調。

(受注動向)

・住宅受注の低迷で加工量も減少傾向。
・県内の住宅着工数に陰りが見え始めた。年明けより7月までは、対前年同月比で上回っていたが、この先は心配。
・8月～9月にかけて横ばい。年内完成考えると、9月末～10月始めが加工のピークになる。
・やっと仕事が増えてきた。